

EXTEND2016における内分泌かく乱作用に関する試験及び評価の基本的な流れ

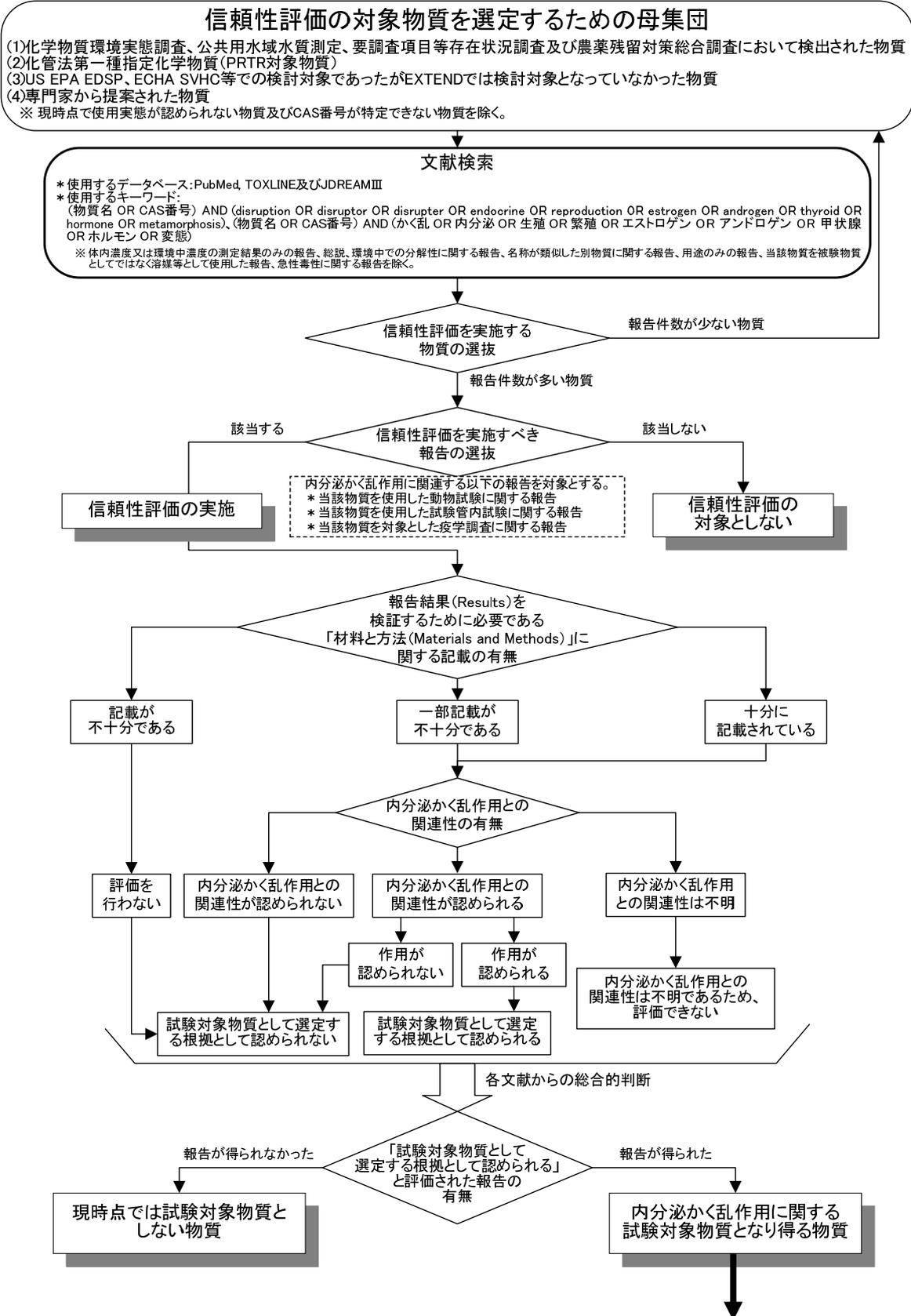


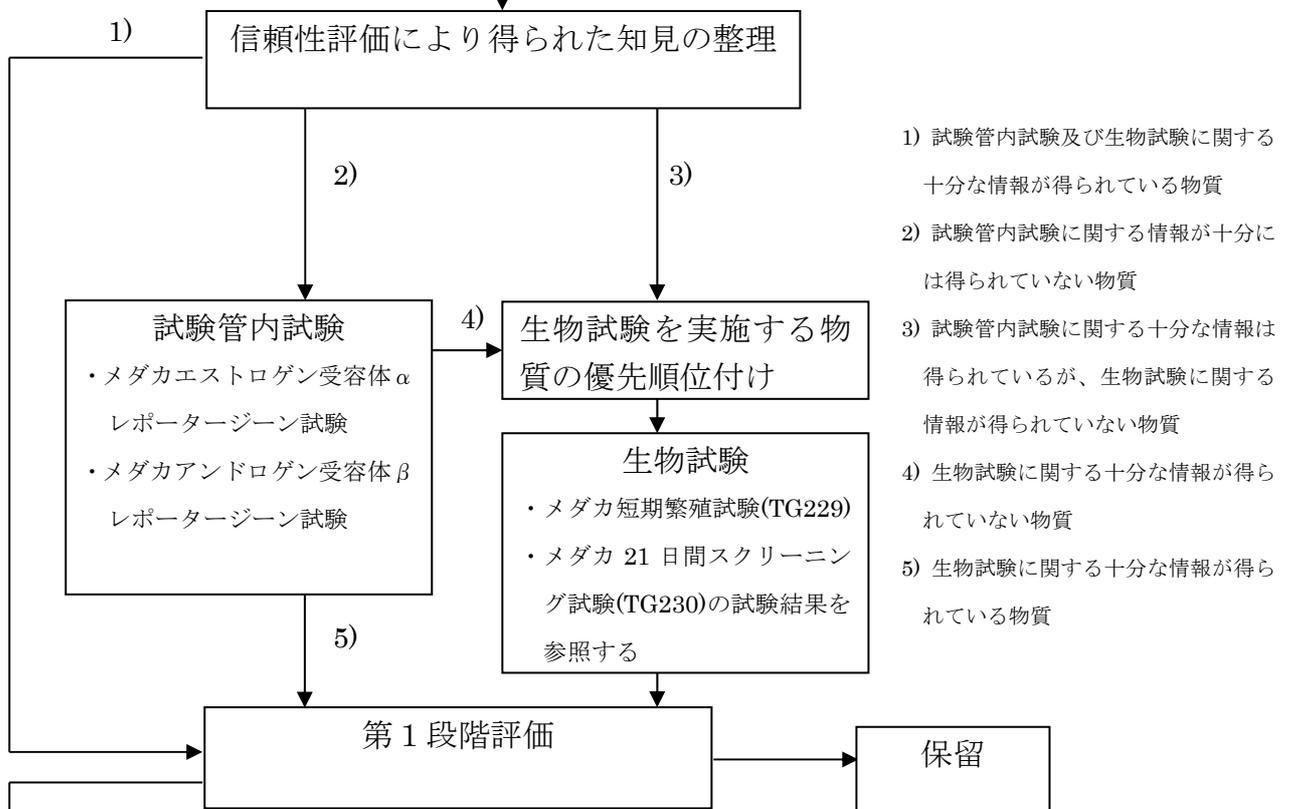


図1 内分泌かく乱作用の有害性評価の枠組み 生殖に及ぼす影響

(エストロゲン様作用、抗エストロゲン様作用、アンドロゲン様作用、等)

第1段階(内分泌系に対する作用の有無を確認)

内分泌かく乱作用に関する試験対象物質となり得る物質



- 1) 試験管内試験及び生物試験に関する十分な情報が得られている物質
- 2) 試験管内試験に関する情報が十分には得られていない物質
- 3) 試験管内試験に関する十分な情報は得られているが、生物試験に関する情報が得られていない物質
- 4) 生物試験に関する十分な情報が得られていない物質
- 5) 生物試験に関する十分な情報が得られている物質

第2段階(有害性の確認)



リスク評価の枠組みへ進む

図2 内分泌かく乱作用の有害性評価の枠組み
 生殖に及ぼす影響
 (抗アンドロゲン様作用、等)

第1段階(内分泌系に対する作用の有無を確認)

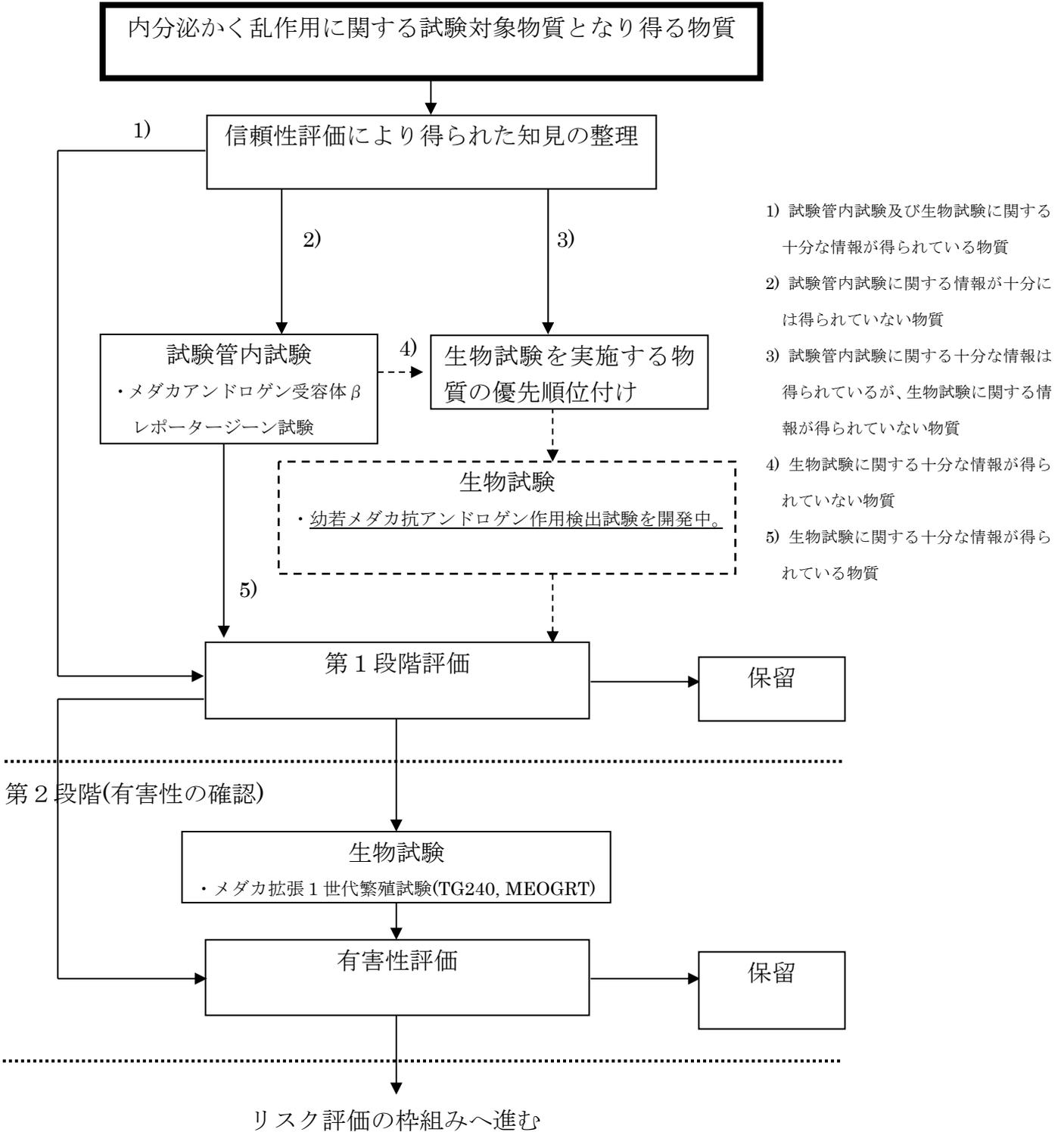


図3 内分泌かく乱作用の有害性評価の枠組み
甲状腺に及ぼす影響

(甲状腺ホルモン様作用、抗甲状腺ホルモン様作用、等)

第1段階(内分泌系に対する作用の有無を確認)

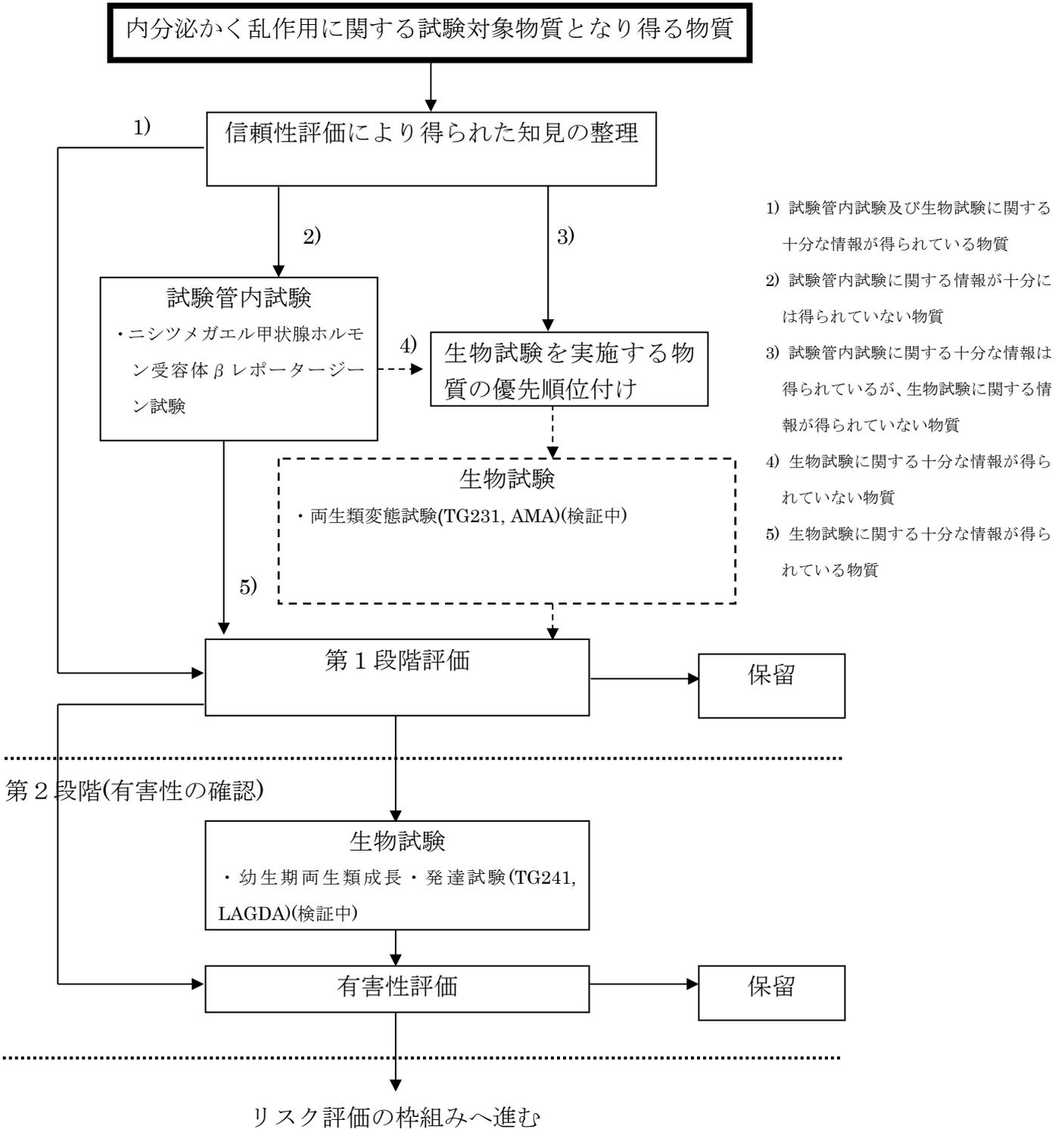


図4 内分泌かく乱作用の有害性評価の枠組み
成長に及ぼす影響

(幼若ホルモン様作用、脱皮ホルモン様作用、等)

第1段階(内分泌系に対する作用の有無を確認)

